

令和7年度第2回地域家庭教育推進南会津ブロック会議の協議内容について

協議テーマ	「家庭教育支援の取組みを具体的に考えよう」
	～家庭教育推進南会津ブロック会議として何ができるか～

<視点の絞り込み（全体協議）>

- 相談窓口の設置や紹介
 - ・声を上げられない子供を救い上げる
 - ・保護者の悩み
- 横の連携を図っていくこと
- 意識の低い方へ支援していくこと（アウトリーチ型支援）
- 地域で子供を育てる意識の啓発

<具体的な取組案（グループ協議）>

相談窓口について

- 相談窓口となる団体等を調査し、リストアップをする。
- 相談窓口を一元化し、H P等で公開する。
- ダイヤル電話相談もあるが、W e bやS N Sでの相談窓口があるとよい。
- 相談先ガイドマップ、リーフレットを作成する。
 - ・相談内容や悩みに応じた相談窓口を掲載すると、団体の専門性が生かせる。
例) 不登校、アレルギー、S N S、発達の不安
 - ・研修等の情報も掲載できるとよい。
 - ・相談の内容をフローチャート化するとわかりやすい。
- 相談窓口同士の連携を図る。連絡会議のようなものがあるとよい。

研修会等のもち方について

- 家庭教育とはどんなものか、何が大切なのかといった「家庭教育について学ぶ場」
- 父親も家庭教育（研修会）に参画しやすいよう、体験活動など楽しく活動できる機会を設定する。
 - 例) 子供と一緒に料理教室
- 子育て世代のつながりをつくっていく。引っ張り出してつなぐ。
- 研修会等の情報が一元化されているとよい。プラットフォームをつくり、研修会やイベント情報の集約や発信を行えるとよい。
- 家庭教育（子育て）支援活動団体の紹介
- 親や地域の人と子供が一緒に参加できる体験活動

その他

- 保育所保育士のもっている情報を町保健師につなぐ。連携する。
- 気にかけながら、見守っていく関わりができるとよい。

<取組みについてのまとめ（全体協議）>

- 事務局で相談窓口を周知するためのガイドマップないしリーフレット等を作成し、次のブロック会議において内容について協議する。
- 協議内容を次年度の研修会の内容に生かしていく。
- S N S等で発信ができるよう、中心となる団体（プラットフォーム）があるとよい。